

社会 授業づくり講座

in 香美市立鏡野中学校

授業をアップデート!
生きて働く学びを創る!
令和5年12月発行
東部教育事務所



東部管内の
講座情報



単元名：第2学年 地理的分野 「日本の諸地域(中国・四国地方)」

令和5年9月21日に開催された授業づくり講座(授業研究会)の様子をお伝えします。本時は単元の最後の時間であり、単元を貫く問い『将来の高知県のために、高知県に関わる人々を増やすためには?』について資料等をもとに多面的・多角的に考察する時間でした。

【本時の目標】

高知県に関わる人々を増やす取り組みについて、資料や他者の意見を基に、多面的・多角的に考察し、表現する。

【本時の評価規準】(思考・判断・表現)

高知県に関わる人々を増やす取り組みについて、資料や他者の意見を基に、多面的・多角的に考察し、表現している。

【Bと評価できる評価の視点】

将来の高知県のために高知県に関わる人々を増やすための取り組みについて、高知県における自然環境や産業などに関する地域的特色を資料から読み取り、他地域の人々にとって特色を生かした魅力的なものになっていると適切に判断し、表現しているかどうかを見取る。

【Bと評価できる生徒の記述例】

高知県には、大川村のような山間部にも、大川黒牛やはちきん地鶏といった特産品があるが、人口減少による後継者不足によって産業を維持することが困難になっている。また、高知県を訪れる観光客の構成割合を見ると、東京都や大阪府など人口が多い都道府県が上位を占めている。そのため、東京都や大阪府の人々に大川村の山間部の特産物を知ってもらい、都市部の人を対象に山間部の畜産を盛んにする地域おこし協力隊を募ることで、地域の産業の活性化につながるのではないかと考える。

【本時の流れ】

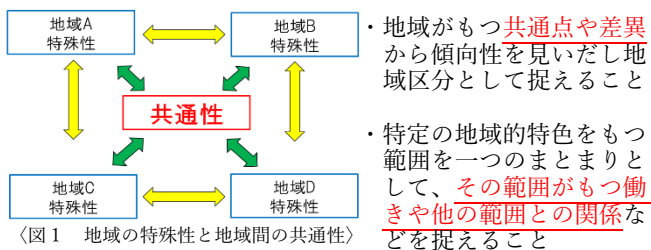
①	②	③	④
授業で提示された資料や、自分で RESAS を活用し収集した資料を根拠とし、単元を貫く問いに対する自分の考えを構築する	自分の意見と友だちの意見を比較したり、批判的思考を働かせたりしながらグループ内で交流する	友だちの意見に対する評価やアドバイスを、付箋に書いて渡す	友だちからのアドバイスを参考にしたり、必要な資料を探したりするなどして、意見を再構築する

授業者 野末 学志 教諭

前時におけるC評価の生徒は、資料を選ぶことはできたが、それを根拠とする意見を書くことができなかった。手立てとして、小学校での既習事項と関連付けさせたことで、意見を書くことができた。また、グループ内での発表で友だちの意見を参考にできたので、意見の深まりが見えた。



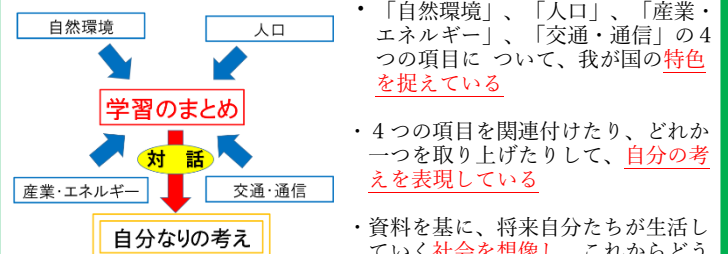
「日本の地域的特色と地域区分」[働かせる見方・考え方]



(例えば本時では)
人口が減少している2つの地域を産業に着目し考察し、後継者不足という地域の共通性を捉える。

(参考) 教科指導の連続性(小学校教科担任制) 授業づくり講座 令和5年4月13日 高知県教育委員会教育課程推進専門官 齊藤一弥氏 講話資料より

「日本の地域的特色と地域区分」[単元ゴール]



〈図2 学習のまとめと自分なりの考え〉

(例えば本時では)
高知県に関わる人々を増やすための方法を、産業の発達と交通網の整備を関連付けて考え、そしてそれを対話を通してよりよいものにしていく。

【研究協議で出されたでの意見】

○良かった点・工夫されていた点

- ・高知県の地方的特殊性に着目し、資料を根拠に考えを構築し発表できていた。
- ・再構築することで新たに気づきがある生徒がいたので、付箋を活用した交流は有効であった。

△改善点・代案

- ・生徒が何を根拠に資料を選んだかを説明するとよかった。
- ・教師の切り返しがあれば、いろんな視点に気付かせることができたのではないか。
- ・多面的・多角的に考察することが弱かったので、近畿地方や関東地方など他の地方を先に学習したり、新たな視点に気付かせたりする資料があればよかった。



【参加者リフレクションより】

- ・小学校段階で、多面的・多角的に考察できる力をしっかり身に付けさせないといけないと思いました。小中で連携しながら考えていきたいです。
- ・B評価やC評価の生徒に対して、付箋を用いたり、ICTを用いて前時までの授業内容を復習するなどの具体的な支援の在り方について学ぶことができました。

【これからの授業で実践してほしいこと】

- ・目標(ゴール)を具体的にする。
- ・C評価の生徒への具体的な手立てを考える。
- ・振り返りの中で、これまでの学びを自覚できるようにするなど、見方、考え方の成長を生徒に実感させる。

まだ見ぬ地域を知ったり、知るための学び方や調べ方を学んだりすることは、成長期の生徒にとって、本来、楽しいことであり、学びがいがあることである。「中学校学習指導要領解説(平成29年告示) 社会編 p37」
そのように生徒が感じる授業づくりに向け工夫・改善をしてください。教材研究会のレポートもぜひご覧下さい。